

ナミビア派遣報告
—ヒンバ社会における子どもの学びの研究—

京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科
アフリカ地域研究専攻3回生
山本始乃

派遣期間：2022年11月2日～2023年1月26日

派遣先：ナミビア共和国：ナミビア大学

キーワード：子ども、社会化、牧畜、日常実践、学び、ナミビア

1. 研究課題について

本研究は、基盤研究S「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」の一環で、ナミビア北部乾燥地域のヒンバ社会における子どもの暮らしを参与観察することで、牧畜生活の中で子どもがどのように知識やスキルを獲得するのかを明らかにすることを旨とする。

2. 派遣の内容

本調査は、上記の研究課題達成に向けて今後の調査・研究を円滑に進めるための状況把握が目的である。そのため、今回の渡航では現地調査を行うための調査許可取得や調査地決めを行った。また今後の調査の方向性を明らかにするために、現地に暮らす人々への聞き取り調査や参与観察も行った。

派遣前半は、首都ウィンドフックに滞在して関連機関を訪れた。調査許可取得のための関連機関訪問や図書館・資料館での情報収集も行った。また、調査予定地に行き、情報収集をすることで調査決めをした。派遣後半では、2つの村に滞在して参与観察とインタビューを行った。さらに、学校や幼稚園を訪れて子どもや関係者と交流を深めることで、今後の滞在に向けて調査の基盤を固めた。

3. 派遣中の印象に残った経験や体験

村での滞在中、ほとんどの時間を女の子と過ごしていた。彼女たちが行う仕事に私も同行し、一緒に仕事をした（写真1、2）。家庭の中で行われる料理、洗濯、水汲み、畑管理、遊牧活動は子どもたちが担うことも多く、子どもは牧畜実践や日常実践といった彼らの生活において重要な役割を占めていた。子どもたちは牧畜実践や日常実践の中で、同性や同年代と遊び、会話し、交流を深めていた。こうした実践の場は遊牧生活に必要な知識継承の機会となっているだけでなく、人々の関わり合いの場としても重要になっていると改めて実感した。



写真1: 川で洗濯を行うヒンバの女性たち.



写真2: 朝の搾乳の様子.

4. 目的の達成度や反省点

派遣の主な目的は、調査許可の取得と、調査におけるカウンターパート探しである。調査許可取得に関しては、政府担当機関から今年末までの調査許可、村の首長と家長から今後の調査を実施する許可を得た。3つの村で滞在場所と許可を得たことで今後は村間の比

較も可能である。現地調査では、各地域/村でホストファミリーを見つけたため、今後の調査基盤が確立できた。さらに、学校や幼稚園、子どもたちとの関わりを得たことで、日常生活における暮らしと学びの研究が可能となっただけでなく、教育機関における子どもの暮らしや学びにも着目することが可能となった（写真3）。

今回の現地調査を行なった期間は、年度末からだったため学校が休みの間だった。学期中はホステルに滞在している子どもたちも村に帰ってきており、多くの子どもたちと関わる事ができた。また、子どもたちは家事や牧畜生活における手伝いを行っており、多くの時間を子どもたちと過ごす事ができた。しかし、家庭内での家事をほとんどが子ども主体で行っており、子どもたちがいなくなった後、もしくは学校生活が始まった後の暮らしと役割については調査することができなかった。日常実践の中から学びを研究するだけでなく、彼らの生活と学校教育がどのように関わっていて、彼らの生活にどのような影響を与えているのかも調査する必要があると実感した。また、女の子と過ごす時間が多くなってしまい、男の子の暮らしや生活についての観察があまりできていない。



写真3: 村の学校

5. 今後の派遣における課題と目標

今回の村滞在は短期間であったため、多くの人を対象にした調査や観察を行うことができなかった。次回は、長期滞在を予定しており、学校生活と牧畜生活を行う様子を観察するつもりである。また、今回あまり調査できなかった男の子の生活についても調査を行いたいと考えている。